

共に未来を育てるために

進路指導の現場から

第8回

自ら将来を選択する力を育て 希望進路実現を支援しています

**3年間を通して
主体的に選択する力を育成**

——進路指導の方針について、
教えてください。

本校は1学年320人の生徒が在籍する総合学科の高校です。卒業後の進路は、約5割が4年制大学への進学、そのほかの生徒は短大・専門学校への進学、もしくは就職等です。卒業後の進路が多様

なので、「自ら選択を重ね、自分の生き方を見つけられる力の育成」を進路指導の方針とし、全校を挙げてキャリア教育に力を入れています。

本校のキャリア教育の特徴は、1〜3年次のカリキュラムに「キャリアプランニング」(必修科目)を組み込み、体系的に行っている点です。「キャリアプランニング」は、希望進路の実現に向け

た3つの選択(文理選択、学びの分野選択、志望校・企業選択)をサポートする内容になっています。

1年次は、自己分析や職業人インタビューのほか、文理選択に向けた調べ学習などを行います。2年次前半は、進路別の調べ学習を行ったうえで、夏休みにオープンキャンパスへの参加、あるいは職場見学を選択させています。2年次後半〜3年次前半は、課題研究に取り組み、3年次後半は、それぞれの進路実現に向けたサポート講座に参加するという流れになります。

また、総合学科なので、自分の興味や希望進路に応じて、幅広い科目を選択しやすくなっています。本校の場合、2年次は週18時間分、3年次は週20時間分の授業が自由に選択できるので、1年次から将来のキャリアを真剣に考える生徒が多いですね。

キャリアセンターを設け 一貫した指導をめざす

——高校としては珍しい、キャリアセンターを設置されていますが、これはどのような組織でしょうか。

通常、総合学科の高校は、総合



神戸市立須磨翔風高校
キャリアセンター チーフアドバイザー

内匠謙介

たくみけんすけ ●教員歴31年。専門教科は地歴公民。同校に赴任して8年目。2017年より現職。進路指導においては「チャレンジしよう。そして、そのチャレンジを楽しもう」と生徒に伝えている。

●神戸市立須磨翔風高校 ▶2009年に開校▶少人数教育、手厚いキャリア教育が特徴▶2017年度卒業生の合格実績は公立大学3名(現役のみ)、私立大学の主な進学先は、神戸学院大、甲南女子大、近畿大、甲南大、関西大、関西学院大、神戸親和女子大など。

学科推進部と進路指導部を個別に置いていますが、本校の場合、この2つをキャリアセンターに集約しています。キャリア教育と進学・就職サポートを組織的、系統的に推進することが目的です。具体的には、「キャリアプランニング」の授業運営・実施に加え、小論文や面接の指導、出願書類の作成などの進路指導などにも携わります。教員への大学情報の提供、大学の高校訪問の対応もキャリアセンターが行います。

「よい」と考える教員がいる一方で、「生徒の可能性を考えると、もっとと努力を促して、学力レベルの高い大学に挑戦させたほうがよい」と考える教員もいます。教員によって指導が違えば、生徒は困惑してしまいますから、キャリアセンターが主導して、進路指導に関する方針を一層強固にしていきたいと考えています。

——キャリアセンターが行う生徒への具体的な働きかけについて教えてください。

大学進学希望者向けには「翔風チャレンジ」という取り組みを行っています。これは、一般入試受験者向けに、キャリアセンターの教員が、受験に向けた心構えや志望校の選び方、学習のプランづくりを指導するものです。これには「生徒のモチベーション維持」という狙いもあります。本校は推薦・AO入試で進学する生徒が多く、一般入試で合格をめざすのは1学年100人程度、1クラスに10数人という割合です。早々に進路を決めるクラスメートが多い中、一般入試で受験する生徒の気持ちをいかに切らさないかが課題でし



た。翔風チャレンジは、クラスを超えた参加者が集まって受験勉強の苦労を語り合う場でもあり、仲間同士の連帯感を高め、刺激を与え合う機会にもなっています。

——最近の高校生の大学選びについて、以前と比べて変化を感じますか?

今の生徒は、学部・学科研究だけでなく、学びの内容についても本当によく調べていると思います。本校は「キャリアプランニング」で、毎週のように大学研究をさせていますが、実際に「このゼミで勉強したい」「この先生の授業を受けたい」という理由から、

まとめ

総合学科だからこそ
1年次からキャリアを
真剣に考えさせている

大学独自の研究、
魅力的な学びを
どんどん伝えてほしい

高校訪問 ワンポイントアドバイス

大学について語れる方に アポイントを取って来てほしい

来校された大学の方とは、卒業生の状況等も含めて、じっくりと話したいと考えています。だからこそ、大学全体の状況をよく知っている方に来ていただきたいですね。また、アポイントはきちんと取ってもらいたいです。われわれも授業を受け持っていますし、生徒からの相談もありますから、アポイントなしでは、お話を聞く時間が限られる場合も出てきてしまいます。